

患者さん一言！

S・Kさん
(浦和区在住 80歳:通院歴4年)

Q: 共済病院で糖尿病治療を受ける「きっかけ」は何だったのですか？

A: 糖尿病は40年前から治療を受けていますが、4年ほど前に公的病院の糖尿病専門医から、「いい先生がいるから」とN先生を紹介されたんです。

Q: 共済病院でN先生の治療には満足されておりますか？

A: 大変満足しています。診療も5分～10分と丁寧だし、そして優しく、励ましもあり、何よりも診断が的確です。

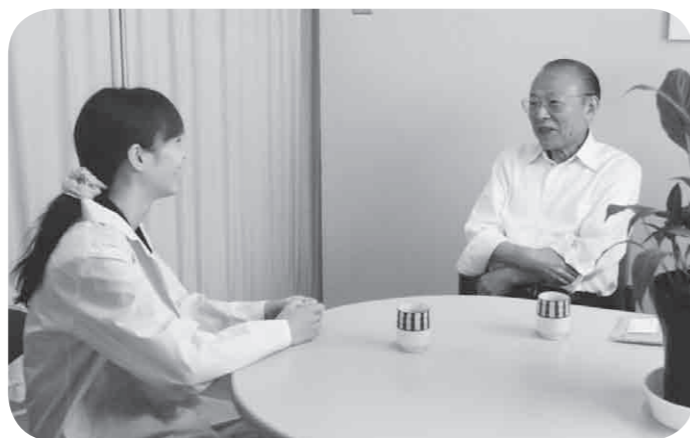
糖尿病治療は患者の私生活をよく理解頂き、的確な指導をして頂くことが大事ですね。

Q: 病院を選ぶ決め手は何でしょうか？

A: 治療前の不安を取除いてくれるのと、信頼出来るドクターがいることですね。

Q: 新・共済病院への提案があればお願いします。

A: 念願の全面改築となり、それに相応しく、ドクター、看護師、並びに職員の皆様も「研鑽」に勤めて頂きたいですね。



病診連携とは…？

昨年、非常勤ながら共済病院の新しい部門として、病診連携職務に就くことになりました。

宜しくお願ひ致します。内容は緑区を中心とした地域住民の皆様の安心・安全医療連携を構築していくこととあります。その為には共済病院は①緑区内41件の開業医（プライマリケア）の先生方との病診連携、②急性期医療中心のさいたま市立病院や自治医科大学附属さいたま医療センター等との病病連携、更には③地元住民の皆様との地域連携の構築であります。

病診連携担当の私の使命は「ドクターツードクター」の接着剤として全国的に今だ成功例の少ない「3つの連携」の成功に全力で勤めていきたいと思っております。またその成功こそが「新生」共済病院の姿であり、患者さんニーズに応えられる中核病院としての責任を果たすことに繋がるのではないかと密かな夢を描いております。

病診連携担当 林 伸一



医療法人 博仁会共済病院

病院だより Vol.14

Take Free
ご自由にお持ちください

2012 夏号
2012年8月1日発行

ココロとカラダのメディカル通信

〒336-0931 さいたま市緑区原山3-15-31 TEL:048-882-2867 FAX:048-882-2887 URL:http://www.kyosai-hosp.or.jp/ 発行人:星野 徹

「博仁会共済病院」50年の歴史とこれから

博仁会共済病院理事長（外科） 星野 徹



みなさん こんにちは。共済病院の理事長の星野です。今回は勤務している職員でも実はあまり知らない共済病院の歴史についてお話ししたいと思います。

博仁会共済病院は隣接する社会福祉法人埼玉県共済会尚和園の付設診療所を発展させる形で1961(昭和36)年に開設されました。以来50年の歴史を持つ病院です。1965(昭和40)年11月には、社会福祉制度と医療制度の改変に伴って尚和園から分離独立する形で医療法人博仁会共済病院と名称変更し再スタートしました。

開設当初の頃は、周囲は林や畑ばかりののどかな環境で、養老院の付属病院といった趣だったようですが、その後、今でも使用している手術室を備えた新棟(近々役割を終え解体されます)が出来てからは、急性期診療を活動的に行う、浦和の東部地区の中心的な病院になりました。周辺が住宅街に変貌し人口が増えたことや、日本の高度成長の波が医療の世界にも及んだこともはずみとなり、共済病院も次々と施設を増築し拡大していきました。

しかし、その後の医療制度の移り変わりとともに、急性期医療から高齢者医療中心の診療へと様変わりしていきました。沈滞ムードを打破すべく、一般急性期診療にテコ入れするために、1992(平成4)年か

ら自治医大附属大宮(現さいたま)医療センターから医師の派遣を受け、連携をとるようになってからは、ふたたび質の高い充実した医療の提供ができるようになりました。5年前に、私、星野が理事長に就任した後、二つあった医療療養型病棟を一つに減らし、急性期一般病棟を増床しました(全体では130から98床に減床)。それまでは一般急性期を強化したとは言っても療養型、高齢者中心の診療でしたが、一般急性期と医療療養型をバランスよく配置するように転換したわけです。

一般急性期医療をきちんと行っていくためには専門診療への取り組みも必要ですので、循環器、消化器、糖尿病、呼吸器、乳腺・甲状腺、整形外科、婦人科、皮膚科、肛門科などの専門外来を設け利便性を増しました。

地域の医療を担っていくという大きな使命を全うする上で、施設の老朽化という大きな問題をこれまで抱えておりましたが、3年前から全面建て替え(耐震)事業が始まり、昨年春には待ちに待った工事が始まりました。今年10月には念願の新病院が完成する予定です。11月から新棟での診療は始まり、その後、現在使用中の建物の解体と外構整備などを経、グランドオープンは2013年4月の予定です。新病院は病院を利用される患者さんやそのご家族、地域の皆さま、働く職員の皆など共済病院に関わるすべての人々に喜ばれ幸せをもたらすものと期待しております。



乳癌について～疫学を中心に～

外科部長 関根 理

本年4月より共済病院の外科部長として勤務しています。私は、2012年3月まで自治医科大学附属さいたま医療センターの外科に17年間所属（初期研修から所属）し、乳腺疾患を中心に従事していました。よろしくお願い致します。

乳癌の話題ですが、近年、日本における乳癌の罹患数と死亡数の増加は著しく、1998年以降の地域がん登録では女性の癌推定罹患数は乳癌が第1位となっています。男性乳癌も稀ですが、女性乳癌の1%弱で発症します。原因は、遺伝的要因、環境因子（飲酒、喫煙、高脂肪高タンパク食摂取）、妊娠・出産歴がない、人工乳、初経年齢が遅い、閉経年齢が遅いといったものが挙げられます。日本人を対象とした研究で閉経前の喫煙女性の乳癌発症リスクは、非喫煙女性の3.9倍と高いことが知られています。また、閉経後の更年期障害や骨粗しょう症に対するホルモン補充療法については、アメリカと日本では取り扱いが異なるのが現状です。アメリカでは大きな無作為試験の結果があり、ホルモン補充療法を継続して5年以上行っている人に乳癌と診断される数が上昇し、補充療法を中止すると、急速に減少したという報告があります。ただ、対象者が肥満者や高齢者であったこともあり、ホルモン補充療法を全て否定するものではないことも事実です。実際、日本人は肥満者が少ないこともあり、今でもホルモン補充療法は行われています。乳癌リスクは少なからず存在することも事実なので、ここで重要なのが、定期的な乳腺及び子宮の検査になります。当院では、乳腺外科及び婦人科常勤医がいるため、定期的な検査を一緒に行うことが可能です。

乳癌検診は、40歳以上から受けられます。ただ、日本での乳癌検診受診率は25%程度と受診率は年々増加傾向にありますが、欧米と比較してまだまだ低く、乳癌発症率は上昇の一途で右肩上がりなのが現状です。乳癌検診は、「問診、視触診、必要に応じてマンモグラフィ」が基本となりますが、乳房組織がしっかりしている40歳代の方は、しばしばマンモグラフィでの評価が困難になることが多く、乳腺超音波検査での評価が有効であることが多いです。乳癌の罹患数を減少させるには、乳癌検診受診率を上げて、乳癌を早期発見・治療することが肝要であると言えます。乳癌検診以外にも当院では、乳腺専門外来を月曜日午後（関根）と土曜日隔週（自治医大さいたま医療センター医師）で行っています。また、マンモグラフィ、乳腺超音波検査ともに女性技師による検査ですので、女性患者さんの希望に沿えるものと考えています。所見がある場合、乳腺細胞診（fine needle aspiration cytology）や針生検（core needle biopsy）も積極的に施行しています。

今回は、乳癌の疫学を中心に取り上げてみました。次回は、乳癌の診断と治療についてお話してみたいと思います。



第1回 共済病院シンポジウムを開催して

看護部長 川村 マサ子

科長会議で提案し合意を得て、6月14日第1回共済病院シンポジウムを開催しました。テーマは、新病院に向けて各所属の期待や夢を発表することにしました。17時45分から発表開始でしたが、50名の職員が参加し第1回としては成功だったと思います。発表者は理事長・病院長そして各科の責任者が行いました。初めは、多くの職員を前に発表することに慣れていない不安もありましたが、部署ごとに新病院での業務に希望や夢があり、規程の時間をオーバーするなど時間が足りない部署もありました。発表された内容を要約すると以下ようになります。1、医療の質を高める。2、患者様対応（接遇）方法の改善。3、患者様から選んでいただける病院になる為の努力。4、職員が働きやすい環境等です。

参加した職員の感想から、同じ病院の他職種の方が、日々新病院に向け努力している事を知り、一緒に頑張れる仲間意識が増したという意見もありました。

これから病院建設も終盤となり、看護部も引越しや電子カルテ導入に向けて、研修等が多く忙しくなります。何事にも慎重にそして患者・ご家族の皆様に安全で安心できる看護を継続していくことを念頭に置き、日々精進してまいりたいと心掛けております。また、次年度は自分たちが描いていた希望の達成度を発表するための第2回シンポジウムが開催され検証されることを期待しています。最後に地域の皆様が、電力節減を余儀なくされる猛暑を乗り切り、健康な生活が送れることを祈念いたしております。

放射線科（レントゲン検査）の紹介

皆さん、こんにちは。共済病院の放射線科です。

放射線科では現在、男性技師1名、女性技師1名、受付1名の3名のスタッフで業務を行っています。

スタッフ一同、明るく・心安く・安心して検査を受けていただけるよう心がけております。

検査に関することは何なりとお気軽にご相談ください。

撮影装置の紹介

- ① 一般撮影X線装置（胸・腹・骨等の撮影）
- ② 透視撮影X線装置（食道・胃・腸等の造影検査）
- ③ X線CT撮影装置（全身：頭～足）
- ④ マンモグラフィー（乳房撮影）
- ⑤ 移動型X線撮影装置（病棟・手術室での撮影）

